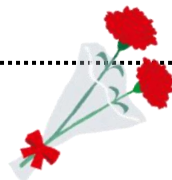


今月の PICK UP

『作り方を作る』 佐藤 雅彦／著 左右社 674.6 ㍿



CM プランナーとして、数々の CM や広告、教育番組を手掛けてきた著者が、40年間にわたる創作活動について余すことなく語った1冊。本書で著者が伝えたかったことは、CM をはじめとする作品そのものより、それらを作り出した「作り方」だということです。さまざまな思考やプロセスを経て生み出した独自の方法论に基づいて、どのように制作したのか、具体例を挙げて詳細に書かれています。当時の実際のCMの画像やセリフ、スタッフとの打ち合わせの様子なども紹介されていて、現場の空気感も伝わり楽しく読めます。本書は、昨年開催された佐藤雅彦展の公式図録でもあり、巻末には出品作品リストも掲載されています。

『大谷のバットはいくら?』 熊崎 敬／著 柏書房 780.6 ㍿



野球のバットやユニホーム用ベルト、バドミントンのシャトル、大相撲の塩や懸賞幕、サッカーの審判用ホイッスル、カーリングのストーンなど、スポーツでは様々な道具が使用されています。本書には、それらの値段を切り口にして、道具の秘密やそれらに携わる人々のエピソードが記されています。スポーツに欠かせない道具が誕生し改良されてきた背景を知ること、これからのスポーツ観戦の楽しみ方が広がる1冊です。

司書の
おすすめ



『65人のこどものはなし』 光村図書出版編集部／編 光村図書出版 914.6 ㍿

『星の王子さま』の有名なフレーズのとおり、自分がこどもだったことを忘れてしまっている大人は少なくありません。それでも、ふとしたきっかけで思い出せるあの頃の気持ちや感覚はちゃんとあります。そんなことを思わせてくれる本書は、三浦しをん・辻村深月・村田沙耶香・町田康・朝比奈あすか等、多彩な書き手たちによる「こども」をテーマにしたエッセイ集です。



『世界の虫を食べてみたい』 吉田 誠／著 緑書房 383.8 ㍿



滋賀の田舎から東大へ進学した著者は、卒論のテーマに悩んでいたときに昆虫食に出会います。「これを研究したい」と思い、タイではココロギの養殖やカメムシの踊り食いを経験し、カンボジアではタランチュラを食します。無事に卒論を終えてサラリーマンとなってからも、希少な昆虫に出会うべくますます精力的に海外へ出向きます。昆虫食の体験記としてはもちろん、旅行記としても楽しく読めて世界の広さを感じられます。



『校正・校閲11の現場』 牟田 都子／著 KTC中央出版 749.1 ㍿

本や新聞、チラシ、映画の字幕、商品のパッケージなど、文字に間違いがないかを事前に確かめるのが、校正・校閲の仕事です。本書では、文芸書の校正者である著者が各分野の11人の校正者を訪ねます。対象となる分野が違えば、校正・校閲の仕事の方法も、大切にしていることも、少しずつ違うことがよくわかります。赤字の入った様々な原稿に、間違いが許されないゆえの校正者の細やかさを感じます。

